

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200718		
法人名	株式会社 エーアイエム		
事業所名	えいむの杜(グループホーム)		
所在地	静岡市清水区北矢部851-1		
自己評価作成日	平成27年1月11日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=2294200718-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

えいむの杜では「私らしく あなたらしく 住み慣れた地域で安心して笑顔で暮らす家」を理念に掲げ、利用者様が主体的で家庭的な環境の下でご家族との繋がりを大切にして日常生活を送る事ができるようサービスを提供しております。小規模多機能型居宅介護と一体となっているため、通いの利用者様等とグループホームの利用者様に交流が生まれ良い刺激となっております。併設の訪問看護ステーションエイムとの24時間緊急対応体制のもと、体調管理に配慮し早期対応することにより安心して生活して頂ける様支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能と訪問看護の事業所を併設していましたが、昨年近くにデイサービスを開設、スケールメリットが増しています。恒例となったえいむの杜祭りは本年度は来場者も大幅に伸び200名と大盛況で、模擬店のおでんは前日から深夜まで仕込み、職員にとっても結び付きを強めた思い出深い行事となりました。お楽しみ抽選会、草木染販売、カフェとメニューも豊富ななかチラシ配布をきっかけにマッサージ師から協力の申し出もあり、行事を通じた縁も広がっています。日頃の生活では併設の訪問看護事業所と24時間の緊急対応体制が整っており、看護師資格をもつ施設長の下、医療態勢において安心の環境にあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「私らしく あなたらしく 住み慣れた地域で安心して笑顔で暮らせる家」を理念に掲げ、実践につなげるよう掲示して、皆で共有し実践につなげている。フロアに掲げいつも意識している。	会議を核に定期的に意識づけ、また現場ではスタッフリーダーが周知を図っています。地域の力を重んじていることは、サロンえいむが隔週開催され異世代の憩いの場となっていることから覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃作業や防災訓練等参加している。自施設にて運営推進会議や防災訓練を開催する際には必ず声をかけ、実際ほぼ毎回参加していただいている。11月のお祭りにも多くの地域住人の方に来場していただいた。	体験学習や学童の受入れはありませんが、マジックショー、フラダンス、健康体操のボランティア訪問が頻回にあります。自治会活動へも清掃のほか、体育委員としても貢献しています。	敬老会の案内をもらえたら、次回は係られるよう検討することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、利用者様とそこご家族に代表で参加していただき、地域の方と直接会話をする機会を設けている。また、お祭りや防災訓練などで直接的な交流の機会もあり、少しずつ理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加して頂き、状況報告を行う。また質問に答え実践にいかしている。利用者様ご家族にも参加していただいている。	もともと併設事業所と合同開催のため賑やかでしたが、近くに同法人がデイサービスを発足したことから2つの自治会に加入することになり、人数も増えました。多様なメンバーを得て、議論も白熱し活気づいています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加の依頼と運営についての相談は担当者の方にその都度電話や、訪問し行っている。	議事録は届けていませんが、案内はだして運営推進会議へ参加してもらっており、また今後は議事録も報告することを予定しています。民生児童協議会とも関係を結び、情報交換を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為玄関に施錠しているが、日中は玄関の施錠は行っていない。代表者は「身体拘束廃止推進看護実務者研修」、リーダー職員2名は「身体拘束廃止推進実務者研修」に参加。他スタッフ2名は近く開催予定の「身体拘束廃止フォーラム」に参加申込済み、その後職員全体に内部研修を行っている。	身体拘束廃止に向け、アンケート調査をおこなっています。結果から自らの言動への意識も芽生え、言葉遣いの修復もつなかりました。日中施錠はなく、玄関周辺で徘徊うような動きがあれば、職員が寄り添い戸外へと誘っています。現在、目的なく出てしまう利用者もいません。	家族アンケートからは職員によって凸凹がみられるようですので、標準化に向けた取組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者及び主任と職員1名は「認知症実践リーダー研修」、職員8名は「認知症実践者研修」修了者であり、他の職員も「認知症スキルアップ研修」に参加しレベルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者は「認知症実践リーダー研修」を受け、他スタッフも毎年新たに受講しているため4名受講済み。「認知症実践者研修」も受講し新たな知識を得て実践に活かしている。後見人制度を利用している利用者が2名入所しており、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、説明している。特に退去時の規定については、看取り介護も含め、丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。運営推進会議の場でもご意見をお願いしている。面会時には特にこちらから声をかけご要望を引き出せるよう努めている。	本年度は運営推進会議の案内をすべての家族に発信しました。面会時に「一緒に外出されては～」と促したことから、家族が事業所の取組みを理解してくれたという嬉しい事例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面接を行い、管理者に直接意見が言える場を設けている。また、ケア会議を月2回に開催し具体的な提案をしその都度検討しスタッフの意見が反映されるようにしている。	年2回、個人面談が設定され、また普段から法人代表が現場を廻り、職員と自然に接しているため、言いやすい環境にあります。また外出企画をはじめ役割が委任されていることで、責任感も育ち提案が増えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長く就労できるような体制作りをしている。人事考課制度、個人面接にて個々の職員の勤務状況を把握し反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未取得の資格講習や気になる研修があれば参加してもらい資格取得、スキルアップ努めてもらえるような意識づくりをしている。(研修費の援助+勤務の調整)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護保険事業者の賀詞交歓会や地域連絡会議、近くの事業所の方を施設のお祭りに招いたり、他事業所のお祭りに利用者と同じ交流をする等積極的に機会を設け向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と直接面会し、ご利用前の不安や要望を聞いている。入所までに「今までの暮らし、趣味、嗜好などシート」を記入していただきケアに活かせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所内の見学を行い希望や要望を事前に把握している。申し送りノートなどに記入し職員間で情報を共有し不安を取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内の見学を行い希望や要望を事前に把握している。申し送りノートなどに記入し職員間で情報を共有し不安を取り除くよう努めている。現在は1年7ヶ月入退去者がいない。また小規模利用からの移行のためスムーズに行える利点がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活していく中で本人の出来る事、やりたい事を見極め、ご本人と職員が一緒に行うことで信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、本人の様子を「えいむの杜だより」と報告書として家族に郵送している。気になる事があれば適宜、報告、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも友人、知人、親族の方々が面会に来ていただける空間作りを心掛けている。友人との外出や要望を聞きだし思い出の場所やなじみの場所に一緒に出かけている。	面会の家族が玄関チャイムを鳴らさずに入室することからも気軽に立ち寄れる場所であることが伝わります。家族の承認があれば飲酒もOKとしていて、また馴染みの寿司を家族に持ち込んでもらう人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考慮した座席の配置。コミュニケーションの苦手な方には職員が気にかけて孤立しないように話やレクが出来る空間づくりをして関わりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族より相談情報提供等の申し入れがある際には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密にとり本人の希望、要望などの思いを汲み取り生活の方向性に活かしている。日々のケアの中で気付きがあれば職員間で共有し、ケアに活かしている。	担当職員を配置することでより丁寧に、生活のなかでこぼれる言葉や変化する行動を読み取っています。日曜日にはリクエストでメニューを決め、洋服購入には同行して選ぶことを手伝っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・アセスメントシート等により今までの状況を把握している。また、ケアマネやご家族からも情報収集している。本人との会話の中からも見つけ出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	2種類の介護記録を利用し日々の時間毎の様子を把握しケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2度ケア会議を行い、個々に気付いた事や利用者の変化について検討し、介護計画書に反映させている。	本人の担当者が原案をつくり、それを計画作成担当者が仕上げています。家族からの意向があまりないことが課題ですが、目標については実践方法を共有してあたっているため、チームケアが叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の介護記録に様子や変化を記入し、バイタルサイン、食事量、水分量、排泄、服薬等一目でわかるようにしてケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を把握し、訪問看護や訪問マッサージ等必要なサービスを提案している。各事業所との連携も密に行い必要としているサービスを見極めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	概ね2ヶ月に1度程度の頻度で運営推進会議を行い地域住民、民生委員、包括、利用者ご家族と情報交換の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には日々の様子などを家族に伝え必要であれば主治医と連絡を取り、適切な医療を受けられるようにしている。通院困難な場合は協力医の往診をお願いしている。	協力医の往診が週1回ありますが、大半は在宅からの主治医を替えていません。主には家族がおこなう受診支援ですが、無理があれば職員が代行しています。訪問看護があることから、入院回避の処置もみられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に併設の訪問看護ステーションの看護師による問診等状態把握のために訪問を受けている。また日々の変化について、24時間看護師に相談できる体制をつくり、早期に適切な処置、対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず施設長、ケアマネがご本人とご家族に面接に行っている。利用者の状態把握に努め退院に向けては病棟担当看護師や地域連携室との連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に従い、かかりつけ医と併設の訪問看護ステーションで看取りも含めたケアの提供が出来ることを説明すると共に、それ以上の医療を希望する場合には他の施設への移行を勧めている。	希望があれば看取りをおこなう方針で、過去に2例の実績があります。状態変化があれば医師の指示を仰ぎ、併設の訪問介護事業所との強固な連携をもち、点滴、留置カテーテル、ストマの医療処置が施されても入居を続けることができます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適宜講習会等に参加し、内部研修を行い緊急時の知識の共有に努めている。また主治医や看護師と連携を行い急変時は対応する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成し、年2回ほど災害対応訓練を行っている。夜間想定や突発性地震によりキッチンからの出火などの訓練を行っている。	消防署の協力もあり、スモークハウスを利用者とともに体験できました。煙で視野が妨げられることでの不安があることや、無毒な煙でも気管支には負担があることがわかり、深い学びがありました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に2度ケア会議にて各利用者の状態を把握し、ケアの見直し、改善点を話し合い、その人らしさを尊重したケアを行えるよう努めている。	外部の接遇研修会にてすべての職員が習得の機会をもっています。本人の生活歴を考慮しつつ呼称は原則「～さん」、着替えには2点以上用意して選んでもらうといったハウスルールもあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の発言しやすい雰囲気作りをしている。訴えの少ない方には答えやすい質問をする等個々の利用者の性格を考慮し要望を汲み取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクや入浴等何か行う前には必ず本人の意思を確認する。何種類か答えを用意して本人のやりたい事やれそうな事に参加していただき本人の意欲を引き出し、楽しく達成感が持てるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる人には自分で選んでもらう。髪の毛の長くなった利用者には適時訪問美容師にきてもらい散髪、染髪を実施している。毎朝起床介護時に整容の時間を設け一緒に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日おいしく食事が出来る様に盛り付けや食器(小鉢、名前入りの箸やコップなど)に気を配っている。テーブル拭きや食器拭きなど参加できる事は利用者と一緒にやる。飲み込みにくい方には、摂取しやすい形態に調理し、「口から食べる」楽しみを継続できるように努めている。	事業所間の間仕切りをもつて、併設事業所と共用空間で食事をしています。そのため社員食堂のような風景ですが、それぞれのテーブルでは個別の空間と係わりがあります。時には出前寿司やカップラーメンも提供されます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々の介護記録に記入。必要量を摂取できるよう時間で摂取の状況を確認し、食事の進まない方には、栄養補助食品の提供や好みに合わせてお茶、コーヒー、ジュース等提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。上手くできない方は職員と一緒にやる。夕食後は義歯を預かり、洗浄、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムがわかるように記録を行い、必要な方には適時声掛けや誘導を行っている。	チェックシートを活用し、時間誘導で日中は出来る限りトイレでおこなうことを旨としています。何時何分と細かい記入が適切な声かけとなった例もあり、職員のやりがいにもなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを考え、食事には繊維質を多く摂取していただける工夫や緩下剤の使用にて便秘予防、解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分配慮し声かけを行っている。入浴剤等を使用しリラックスして入浴できるようにしている。体調によってシャワー浴や清拭にする等している。	拒否があっても、職員をかえたり、また時間帯や日を交換するなどの工夫をもって清潔保持に努めています。夜間帯の入浴希望があるときも、なるべく実現できるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の妨げにならない程度の休息を取っていただくなど、本人の希望に合わせて支援している。就寝時間も一人一人に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックを行い服薬忘れ等無いようにしている。変更等あった場合には申し送りノートを活用し職員間で情報の共有をしている。受診日前であっても気になる症状がある場合は、主治医に相談し、処方内容の変更するなど細く対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味趣向をしり、楽しく活動ができるよう支援している。外出の機会を設け気分転換の場をつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物やドライブ、イベント等外出の機会を多くつくっている。天気の良い日は散歩をする時間をつくっている。	好天日には近くの散歩や体操が日常にあり、ドライブ外出は毎月3名の職員が持ち回りで検討しています。カラオケボックスではほぼ1日歌と踊りを満喫して、大好評でした。清水の七夕まつりは恒例となり、節分の豆まきや初詣、花見と季節毎にでかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難、紛失等のリスクを考え、事務所内の金庫に保管させていただき、本人の希望に応じ使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望、要望がある場合には職員が家族等に連絡し本人と会話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日数回掃除を行い清潔、整理整頓をしている。エアコン、加湿器を使用し、温度・湿度管理、次亜水による消毒、換気等を行い過ごしやすい環境づくりをしている。	併設事業所と共用ということもあり広く見通しのよい空間ですが、ソファや椅子を配し、居場所をつくることも成されています。トイレにも小さな絵画があり、「殺風景にならないように」との心遣いがあります。掃除は利用者も一緒におこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きく左右でグループホームと小規模多機能と分けているが、利用者同士の関係を理解し好きな座席に座れるよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらい個々の生活環境を作っている。生活していて過不足した時は、ご家族に連絡し、相談して季節感のある生活を目指している。	使い慣れた家具の持ち込みを奨励していて、テレビがある居室もあります。リモコン操作ができる人には自室の温度調整は概ね本人に任せているほか、レイアウトを過ごしやすいよう替えることも本位に応えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合わせた表示や表札でわかりやすくしている。一人ひとりの状況に合わせ、杖、歩行器、車イスなど利用し安全に移動ができるよう適時見守りや介助を行っている。		